



なでしこ



令和5年(2023年)6月30日

No.9

持続可能な社会の担い手を育てるための

「草津小の生活科・総合的な学習の時間」

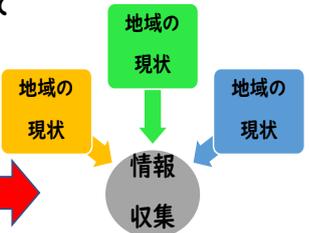


どのような力が身につくの？

これら3つは、これからの時代を生きていくために必要な力です。

- 意味を見いだす力(知識及び技能)
- 学びを創る力(思考力・判断力・表現力等)
- すすんで関わる力(学びに向かう力・人間性等)

地域の状況を情報収集し、探究する課題を見つける

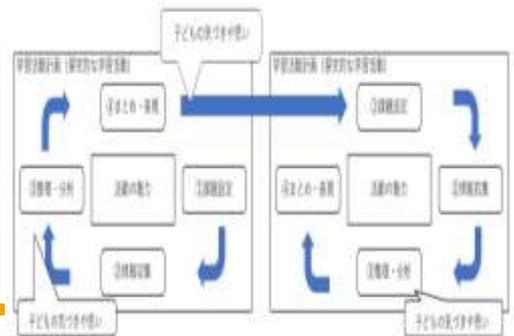


生活科・総合的な学習の時間では、何を学習するの？

下図のように、「学びのサイクル」が何回も続いていきます。

◎自分たちで考えていきます

- 自分たちの生活の中の「はてな？」から、課題を見つけます。
- 友だちや地域の方などと協力することで、解決できることを選び、考えます。
- 1つだけの正解というのは、(実社会にも)ありません。



学習指導要領において、「持続可能な社会(SDGs)の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、SDGsに関連する内容が盛り込まれています。そこで、本校では、これまで取り組んできた環境、平和や人権等の様々な課題への取組をベースにしつつ、新しい側面から学校全体で『生活科(1,2年)』と『総合的な学習の時間「なでしこ」(3,4,5,6年)』の単元開発に取り組んでいます。

1学期も、子どもたちの発達段階に合わせ、地域の課題と関連付けて学習を展開しているところです。特に、学校や地域など身近な課題解決の先に、SDGsの達成があると考え、地域の皆様に様々な面でご支援・ご協力をいただいています。このような活動を通して子どもたちに、社会の一員として、主体的に判断して社会に参画しようとする力や、自分たちの生活をよりよくするために行動しようとする力を育てています。また、以下の通り、本年度は県の研究発表校として、本校の子どもたちの学びを、県内外の教職員の皆さん方に発信する予定をしています。なお、研究発表大会当日の保護者参観はございません。



『令和5年度 滋賀県教育研究会 生活科・総合的な学習の時間 研究発表大会』

【日時】 令和5年12月8日(金)

【場所】 草津小学校

【内容】 公開授業・授業研究会・講演(文部科学省 教科調査官)等

※当日は、全学年給食終了後、下校の予定をしています。詳細は後日連絡します。



子どもたちの様子をお知らせする「草津小ホームページ」毎日更新中!ぜひアクセスしてください。

潜入!草津小リアルスコープ 『草津小コミュニティ・スクール(学校運営協議会)』

草津市教育委員会から学校運営協議会の設置が認められた学校を「コミュニティ・スクール」といいます。今年度も学校運営協議会の設置が認められ、本校は「コミュニティ・スクール」となりました。

学校運営協議会は、草津市教育委員会から任命された委員の方々が、学校運営の基本方針の承認や学校運営に対する意見を述べることにより、様々な立場の皆さんの意見を反映した協働的な学校づくりを目指すものです。今年度の重点取組である「生活科・総合的な学習の時間の充実」を推進することについても、学校運営協議会で承認していただき、関係者が一体となって推進できるよう熟議していただく予定です。なお、学校運営協議会は、今年度4回程度の開催を予定しています。第1回学校運営協議会は、7月12日(水)に開催を予定しています。開催後、議事録等は、本校ホームページに随時掲載させていただきますので、ぜひご覧ください。



令和5年度 草津小「学校運営協議会委員」(敬称略)

	名前	役職	
1.	中島 登	草津学区青少年育成区民会議 会長	
2.	湯浅 敦	草津学区民生委員児童委員協議会 副会長	
3.	古林 健児	草津小学校 PTA 会長	
4.	戸高 秀人	草津小学校 環境ボランティア 代表	
5.	田中 香治	保護司(草津学区担当) 草津市議会 議員	
6.	水野 裕美	滋賀大学教育学部特任教授 (滋賀大学教育実習連携担当)	
7.	森 和美	草津まちづくりセンター長	
8.	竹谷 利子	草津小学校 地域コーディネーター	
9.	中村 真理子	草津小学校 校長	
10.	西邑 祥明	草津小学校 教頭	



『子どもの命を守るために』



「引き渡し訓練」を終えて

過日6/16(金)には、「引き渡し訓練」に多数の保護者の皆様に参加いただきありがとうございました。日頃より本校は、子どもたちにとって「最も安心・安全な場所にしたい。」という強い思いをもって、防災教育に取り組んでいます。また教職員は、本校で作成した「危機管理マニュアル」を基に、緊急災害時の対応に備えています。

集中豪雨や台風、地震等、様々な災害から「自分の命は自分で守る」ために、子どもたちに判断力を身につけさせなければいけません。加えて、緊急時に子どもたちに指示を出す我々教職員の判断力の確かさが、子どもたちの命を守ることにあります。

コロナ前になりますが、私は東日本大震災の津波に襲われ、最も安全であるはずの学校管理下で過去最悪の犠牲を出した宮城県石巻市立大川小学校の震災遺構に行き、遺族の方からお話を聞かせていただく機会を得ました。遺族の方から「地震や噴火が起きることは変えられない。でも何十万人もの死者が出ることは、変えることができる未来だ。」と教えていただいたことが忘れられません。

学校で行う様々な訓練を通して、日頃から防災意識を高く持ち、事前に取り組むことが大事です。「実際に被災現場で被災の実相に触れたこと。」「大川小をなぜ残すことになったのか思いを巡らすこと。」「暑い日も寒い日も、遺族が語る思いを想像すること。」

そのようなことを頭の中でくり返し考えながら、日頃の「備え」を万全にしていま

す。
校長 中村 真理子



子どもたちの様子をお知らせする「草津小ホームページ」毎日更新中!ぜひアクセスしてください。